

**2022年度**

# **事業計画書**

**自 2022年4月1日**

**至 2023年3月31日**

**公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団**

**東京都港区新橋六丁目19番19号  
アセント新橋2階**

## 【事業概況】

当財団においては、2017年3月の設立以来、将来の地球環境の保全、自然環境の保護・整備と循環型社会の推進に資することを目的とし、自動車のリサイクルの高度化等に関する学術的・実践的調査・研究の推進を行うとともに、消費者団体等の自動車リサイクル等に関する周知活動の支援や自動車の解体・リサイクル等の安全・確実、かつ、円滑な遂行に資する情報・機器等の開発・普及等に資する事業を行ってきた。近年、AI/IoT等のデジタル技術の急速な発展や、菅義偉首相（当時）が2020年10月の臨時国会の所信表明演説において「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言したことなど、自動車リサイクルを取り巻く環境は大きく変化している。このような状況に鑑みて、2022年度は上記の目的を達成するために、以下の助成対象事業および自主事業を行う。

## 【自動車リサイクルの高度化等に資する事業】

### I. 助成対象事業（概算総額：97百万円）

2020年度に採択した事業のうち1事業が2022年度も継続実施することから、以下の通り計画。

[前期からの継続事業]（概算総額：2.5百万円）

#### ▶ 自動車リサイクルに関する周知活動支援事業(概算総額：2.5百万円)

実施主体：NPO 法人 RUM アライアンス

概要：自動車リサイクルの現場を活用した周知活動

上記継続事業に加え、2022年度新たに以下のテーマについて公募を実施した。

[新規公募事業/カテゴリーA]

#### (1) ASRの低減等<sup>\*</sup>に資する再生材の基礎技術研究・開発事業

概要：使用済自動車の樹脂部品の劣化特性の研究や使用済自動車から発生する再生可能な樹脂の選別技術に関する基礎研究に対する助成を実施。

#### (2) ASRの低減等<sup>\*</sup>と自動車への再生材の利用に向けた設備開発事業

概要：使用済自動車及びASRからの自動車への再利用に向けた樹脂等選別装置の開発に対する助成を実施。

#### (3) ASRの低減等<sup>\*</sup>・自動車3Rの高度化に資するリサイクルシステムの事業性評価事業

概要：自動車ガラス等の取外し、材料リサイクルシステム構築・事業性に関して検証。

#### (4) 自動車リサイクルに関する周知活動支援事業

概要：自動車リサイクルの取り組みやメリットを消費者に認知していただき、また、上記取り組みが実現化した際に、積極的に再生材等を活用いただけるよう、セミナー・展示会の開催に金銭的・人的・物的支援を行う。

\* ASRの低減等：ASRの低減に加え、次世代のマテリアルリサイクル

（イメージ例：CFRP・LiBのマテリアルリサイクル等）を含める。

[新規公募事業/カテゴリーB]

- (1) AI/IoT を活用した、自動車リサイクルにおけるトレーサビリティ強化検証事業
- (2) AI/IoT を活用した、自動車リサイクルにおけるナレッジシステム構築事業
- (3) AI/IoT を活用した、自動車リサイクルにおける中古パーツの利用促進検証事業

公募の結果 3 件の申請があり、書類審査で 2 件通過し、2022 年 3 月 10 日開催の選考委員会にてヒアリング審査を行った結果、以下の通り 2 件が最終選考で承認された。

▶ASR の低減等・自動車 3R の高度化に資するリサイクルシステムの事業性評価事業(概算総額：66 百万円)

実施主体：株式会社 矢野経済研究所

概要：自動車由来樹脂リサイクル社会実装事業

▶AI/IoT を活用した、自動車リサイクルにおけるナレッジシステム構築事業（概算総額：28 百万円）

実施主体：株式会社 日立製作所

概要：AI/IoT を活用した解体作業・部品管理等の効率化検証事業

## II. 自主事業（概算総額：241 百万円）

### (1) 次世代自動車の適正処理に向けた実証・研究事業

i) AI/IoT を用いた自動車リサイクルの高度化に係る事業（概算：50 百万円）

[3 か年事業の 1 年目]

概要:CFRP のサーマル処理技術開発ははまだ発展途上の段階であることから、処理技術の調査・研究を実施し広く社会に公開することで、低コストな処理施設の育成・普及を図る。

予算：1 年目は委託事業者への費用 25 百万円に加え、実証に係る費用も 25 百万円程度を見込み概算 50 百万円を計上。なお、2 年目、3 年目予算はプロジェクトの進捗を見ながら計上していく。

ii) リチウムイオン電池のサーマル処理実証事業（概算：11 百万円）

概要:自動車用 Li 電池のリサイクル可能施設は限定的（10 社程度）であることから、今後の発生量増大を勘案し、全国にリサイクル可能施設をより多く設置することで輸送・処理コストの低減を図り、ユーザー負担額の最小化を目指すとともに長距離輸送等での発火等のリスクを最小化する。

iii) CO2 可視化事業（概算：30 百万円）

概要: 2050 カーボンニュートラル（CN）及び更なる資源循環を推進するうえで、自動車リサイクルにおける CO2 排出量を把握・公表し、関係者に幅広く認識いただくとともに、今後の財団としての取組方針を決めるための基礎資料の一つとして活用する。

### (2) 新規自主事業（概算：150 百万円）・・AI/IoT 関連事業 50 百万円とその他事業で 100 百万円

以上